

J-CEF NEWS

no. 4

2014 SUMMER

リレーエッセイ

○ わたしのシティズンシップ教育体験

／神野有希（一般社団法人コアプラス）

実践事例紹介

○ 自治を拓く無作為抽出による市民討議会

／吉田純夫（NPO 法人市民討議会推進ネットワーク代表理事／NPO 法人みたか市民協働ネットワーク理事）

書評

○ 福祉国家へのアプローチ（大塚 桂 著）

井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法（井上ひさし 著、いわさきちひろ 挿絵）

／古賀桃子（NPO 法人ふくおか NPO センター 代表）

特集

○ 「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／北山夕華（ブスケルド・ヴェストフォールド大学 客員研究員）

／若林勇太（公益財団法人さっぽろ女性青少年活動協会 札幌市若者支援総合センター指導員）



わたしのシティズンシップ教育体験

一般社団法人コアプラス
神野有希

連日の猛暑が続く夏真っ只中。サウナ状態の我が家から逃げ出すように近くのカフェで筆を進めることにした。夏の暑さに集中力が切れるという経験は、みなさんも一度はあるのではないだろうか。私が思い出すのは子ども時代の教室だ。

私は小中学校と和歌山県にある「きのくに子どもの村学園」という一風変わった学校に通っていた。総合学習が学びの柱となっている学校で、木工をテーマにログハウスや喫茶店の建築を行う「工務店」、歴史をテーマに竪穴式住居の復元や縄文キャンプを行う「歴史館」というように、総合学習のテーマでクラスができていた。そこでは週に1度全校生徒が集まり、学校のルールについて話し合う「全校ミーティング」の時間があった。話し合われる内容は様々で、今困っていることが議題に上ることもあれば、運動会や遠足といった学校行事の提案も行われていた。あるとき一人の子どもが「暑くて集中できないので、エアコンをつけたい」と議題を出し、様々な視点か

ら意見が交わされた。ある大人からは、全教室にエアコンを設置すると家庭からこれだけの費用を負担してもらわなければならないと予算についての発言があった。環境問題をテーマにしているクラスの子供からは、エアコンの使用が地球環境に与える影響についての発言があった。とは言え暑いものは暑いので、どうにかエアコンを設置したいという子どもも多数いた。話し合えば数週間に亘り、結局は全クラスに扇風機が導入されることになった。エアコンに比べると劣るが、それでもうだる様な暑さから解放され嬉しかったことを覚えている。

きのくに子どもの村学園の実践は自由教育の背景から形になってきたものであり、シティズンシップ教育の文脈では語られていない。しかし、私にとってシティズンシップ教育をイメージするときには今でもこのミーティングの光景が思い浮かぶ。同じように、以前勤務していた学校で人権教育として行われていた実践は、私にとってはまさにシティズンシップ教育であった。こ

れら以外にも全国津々浦々にシティズンシップ教育として語られていないが、その内容を見るとまさにシティズンシップ教育だと言える実践をしている学校・民間・行政が多数存在しているだろう。

「シティズンシップ教育」という言葉が少しずつ市民権を得るようになってきた今、これらの実践が改めてシティズンシップ教育の視点から捉えなおされていくことの価値は大きいと感じる。シティズンシップ教育として重ねられてきた実践・研究と、それとはまた異なる文脈で重ねられている実践・研究。それらの歴史と最前線が交差することで、これからの実践・研究に新たな彩が加えられていくだろう。J-CEFでの取り組みがそれらの出会いを促進していけるものであること、そしてその出会いにより、それぞれの現場での実践・研究が発展していくシティズンシップ教育の未来に期待している。

神野有希 (j.yuki.j@gmail.com)